

ボランティア活動を始めるあなたへ

気持ちの良いボランティア体験をするために、次のことを心がけましょう。

- ① あいさつは基本です。施設の利用者の方や職員、他のボランティアへのあいさつ・自己紹介ができるとお互いの距離も縮まります。
- ② 感染症対策のためにも、ボランティア同士でのおしゃべりは必要最小限にしましょう。
- ③ 約束や決まりごとを守りましょう。また、遅刻・早退や参加できない場合は、必ず受入施設などに事前に連絡しましょう。
- ④ 期間中は、受入施設などの方針・指示に従いましょう。
- ⑤ 期間中は、特に健康に気をつけましょう。万が一風邪などの症状が出た場合は、受入施設などに連絡し、指示を待ち、感染防止のため無理に参加しないようにしましょう。



始める前に、あなたに伝えたいこと ～ ふくしのココロ ～

福祉ボランティアの視点は、「共感・当事者性（自分のこと、という意識）」をもつことです。大変そうだからやってあげる、かわいそうだから助けてあげる、という「同情」ではなく、「自分にできることはないだろうか」と考えられる「共感」へ、意識を変えていくことです。

最初は、少し難しいことかもしれませんが、共感とは、相手の立場や状況を理解する、ということです。

共感をすることで『さまざまな見方・立場がある』ということに気づき、共に生きていこうという力を養うことができます。

福祉は、他人のためにすることではなく、心身が不自由な人や介護サービスなど、特別な人のためだけを指すものでもなく、日々の『自分とみんなの暮らしのしあわせ』をどうしたら築いていけるかを考え、排除しない、無関心でない、多様性を認めあえる社会をみんなで築いていくことです。あなたの周りには、どんな気持ちで毎日を過ごしているでしょうか。

あなたの家族や友達。一人で暮らしているお年寄り。小さな子どもがいる両親。

多くのお客さんと接する仕事をしている人。福祉施設や病院で働いている人。

治療のために入院している人。…

私たちのなかにやさしさを広げることが、やさしいまちをつくることにつながります。社会を一気に変えることは難しいと思います。少しずつ。できるだけ。できることから一歩ずつ。

— 今回の体験が終わったら、ぜひ、あなたの考えたことを教えてください 😊

※ 感染症対策について ※

- 事前に検温をしていただき、体調が良くない場合（例：発熱・咳・咽頭痛など）は、体験施設等に連絡し、参加を見合わせてください。
- 感染状況により、やむを得ず実施直前でも受入れを中止する場合があります。受入れ中止の情報については、大分県ボランティアセンターホームページに随時掲載しますので、ご確認ください。